

こども支援アセスメント通信 vol.8

コミュニケーション スキルアップ★COM

「保護者面接」を考える



面接は、事業所全体で対応するもの

保護者との面接を行う前に、次のことについてチェック回してみてください。

- その面接によって、誰がどのようになることを目指していますか？（面接のゴール、目的は何ですか？）
- そのゴールに向かうための面接のシナリオを、頭の中でイメージできていますか。
- 今回の面接のゴールとシナリオは、事業所の職員全体で考え、共有されたものですか？

いかがでしたか？ 面接はそれを担当する方だけでなく、事業所全体でその内容を把握できていることが大事です。例えば面接前に、保護者から得たい情報、伝えたい情報、合意を図りたい内容等を職員間で確認し、今回の面接の目的を共有します。面接後には、担当者は面接で確認できた内容や今後の支援に必要な情報を整理・記録し、職員全体でその内容を共有するとともに今後の方向性を考えます。

これらの一つ一つの取組が保護者に伝える際の大きな後ろ盾となり、担当者は個人ではなく事業所代表としてお子さんの支援の方向性等を明確に伝えることができるようになります。結果として、保護者の事業所への信頼感につながっていくことでしょう。

【面接の目的と職員全体で心がけたいこと】

面接の目的	職員全体で心がけたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 保護者の困り事やニーズの把握。 ▶ 家庭と事業所で捉えている子ども像の共有。 ▶ 支援方法の検討に必要な情報の収集。 ▶ 保護者と事業所間での支援の共有と合意形成。 	<p>[面接前の準備]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接で取り上げる内容の情報整理ができていないこと。 ・目的や面接のシナリオを、事業所全体で共有しておくこと。（面接担当者の考えだけで面接のシナリオを決定しない。） ・保護者にも、面接の目的を伝え、ゴールを共有しておくこと。 <p>[面接後の振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的の達成状況、面接内容、今後の方向性について職員間で共有すること。（面接記録として客観的に面接内容を記載する。）

支援の根拠も説明できるようになる ～こども支援アセスメント勉強会～

最近Aさんには、□の場面で■の行動が多く見られていました。その理由が△と思われたので、職員全体で◎の対応を続けているところです。そうしたら、×日前から○の変化が見られるようになってきたんですよ。いい反応なので、▲週間ほどこの対応を続けて、Aさんの変化を見ていきたいと思います。家でもこのようなことはありますか？ 家でも●の部分から一緒に取り組んでみませんか？



もしあなたが保護者だとして、面接でお子さんの支援について事業所からこのような具体的な根拠に基づいた説明を受けたら、「家でも少し取り組んでみようかな…」と少し前向きな気持ちになりませんか？

普段からお子さんの行動を観察・分析し、根拠に基づいた支援を考えて対応できていることで、面接の場面でも保護者に説得力をもってわかりやすく説明を行うことができるようになります。

そこで、2回シリーズで講師 本郷 佳江 先生（NPOハッピーピース代表）より、「応用行動分析シート」を用いたお子さんの支援の整理術、支援へのつなげ方を学ぶ「こども支援アセスメント勉強会」を開催します。1回目（WEB）で行動分析の考え方全般について学び、2回目（会場集合）は具体的事例での演習を行います。（1回目のみの受講可、2回目は1回目の受講が必須。）申込は11月5日（金）までとなります。

気になる子どもの アセスメントミニ講座

「ぬり絵をすると枠からはみ出したり、すきまが多い」

「文字や図形を正しく書き写すのが苦手」

「ダンスを見て覚えたり、まねすることが苦手」



なんだか不器用なのよね、
繰り返し練習させないと！

今回のテーマ 「見る力」 ①眼球運動

このようなお子さんは、机上活動では「不器用」、運動場面では「体を動かすのが苦手」と判断されやすいと思います。本人は一生懸命取り組んでいるのに、練習してもなかなか上手にならない…。そのようなときには、「動く・動かす能力」だけでなく、その活動でなにをするべきかを把握したり、自分がどう行えているのかを確認するために重要な、「見る力」が弱いという可能性を考え、お子さんの様子を観察してみませんか。

人間は、外からの情報の8割以上を視覚から得ていると言われ、「見る力」は、子どもたちが学習や運動を行う上で非常に大切な役割を担っています。そして「見る力」は、「1 入力（＝視力、眼球運動）」「2 情報処理（＝視空間認知）」「3 出力（＝目と体の協働）」と段階づけて捉えることができます。

今回は、外界の情報を目から正しく脳に届けるための入力機能である、「眼球運動」についてご紹介します。目の動きが適切に行えることで、目からの情報をくまなく取り込むことができます。

眼球の動き方と、その機能を使う場面に関して、以下のように整理してみました。私たちは日常生活上で、このような動きを無意識に細かく組み合わせることにより、ものを見ています。

眼球の動き	視線の動き	学習場面での一例
わずかな動きのみ	あまり動かない	先生をじっと見る
ゆっくり動かす	見ているものの動きに合わせて滑らかに動かす	本に書かれた文字を追いかける
すばやく動かす	一点から別の一点へジャンプするように動かす	本を読むとき、次の行に移る
両目を寄せたり離したりする	近くのものや遠くのもの間で焦点を移動させる	黒板とノートを交互に見る

また、対象物や自分が動いている場合、それを見る難易度は上がります。

①自分も相手も静止	②自分は動き、相手は静止	③自分は静止し、相手が動く	④自分も相手も動く

眼球運動のチェックと動きを促すという目的を兼ねて、簡単にできるトレーニングもあります。例えば、
○ぐねぐねした線をていねいになぞる ○文字表から特定の字を探す（絵やイラストでも可）
○ひもを結んだおもちゃを大人がゆらゆら動かし、それを見たり指先でタッチしたりする 等です。かしこまらずに、遊びのひとつとして楽しく行えるといいですね。

目からの情報がうまく入らないということ、私たちが具体的に想像するのは難しいので、まずは「見る力」について知って頂きたいと思います。遊びや活動の中で目の動きを注意深く観察し、見る力が弱いという可能性に気づくことができれば、学習場面だけではなく生活上の困り事を減らすきっかけになります。

次回は、脳にもたらされた視覚情報を処理する役割を果たす「視空間認知」についてお伝えします。

これまでの通信は当所ホームページに掲載されています。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sd-hohuku/reha-reco-kodomo-assesment.html>
（「仙台 リハレコ」で検索） QRコードはこちら→



[発行・問い合わせ先]
宮城県仙台保健福祉事務所健康づくり支援班
〒985-0003 宮城県塩竈市北浜4丁目8-15
TEL/FAX : 022-363-5503 / 022-362-6161
メール sdhwfzke@pref.miyagi.lg.jp